

ちょうちん

ろうそくをともす明かりの道具。持ち歩いて足もとをてらすのに、べんりだった。 いまでも、お祭りで使われていることがある。



あんどん

なたね油を使った明かりの道具。おさらに油をいれ、「とうしん(灯心)」に火をともす。 おもにへやの中で、ゆかにおいて使用された。ランプが使われるようになり、使われなくなった。



明治

大正

いわが生

ランプ

とう油を使った明かりの道具。海外から入ってきたもの。日本のたたみの部屋に合わせて、 ちをそなえたものもある。あんどんよりも明るい。

明治

大正

にようわ ぜんき 昭和前期

「しょう わこう き 昭和後期





でん 電きゅうと電きゅうがさ

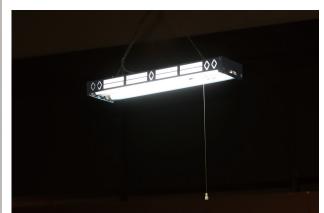
でんりょく あ ひ つか ひ つか でんぱい 電力をりようした明かり。ランプよりもはるかに明るくなった。火を使わないため、火事の心配も でんき つか どうぐ なか あ はや いえ つか なかった。電気を使う道具の中で、明かりはいちばん早く家で使われはじめた。

昭和前期

「しょう ゎ こう き 昭和後期

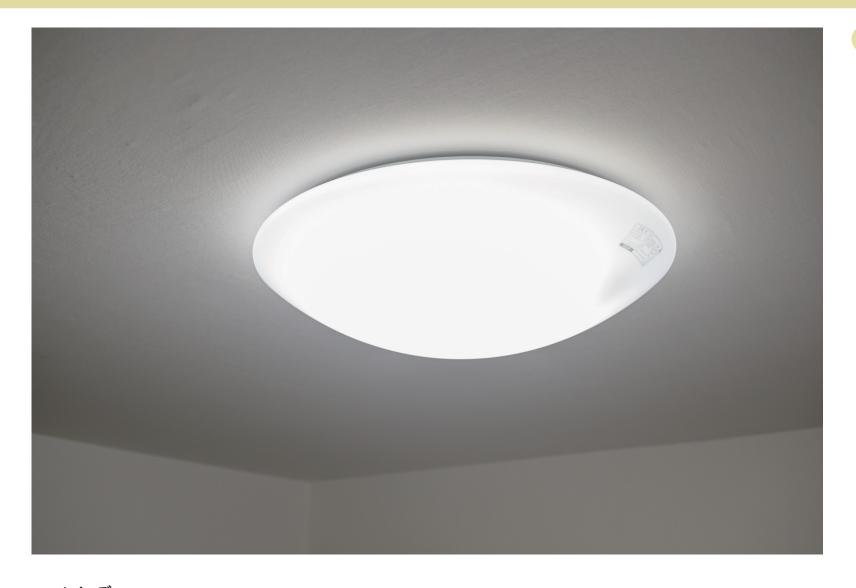
平成





けいこうとう

でんりょく 電力をりようした明かり。部屋のすみずみまで、てらすことができる。さいきんまで、もっとも っか でんりょく すく エルイーディー よく使われていた。いまでは、使う電力がより少ないLEDライトにかわってきている。



ェルイーディー いま:LEDライト

っか でんりょく すく あか いえ あ っか けいこうとうより使う電力が少なく、明るい。いまの家の明かりに使われている。